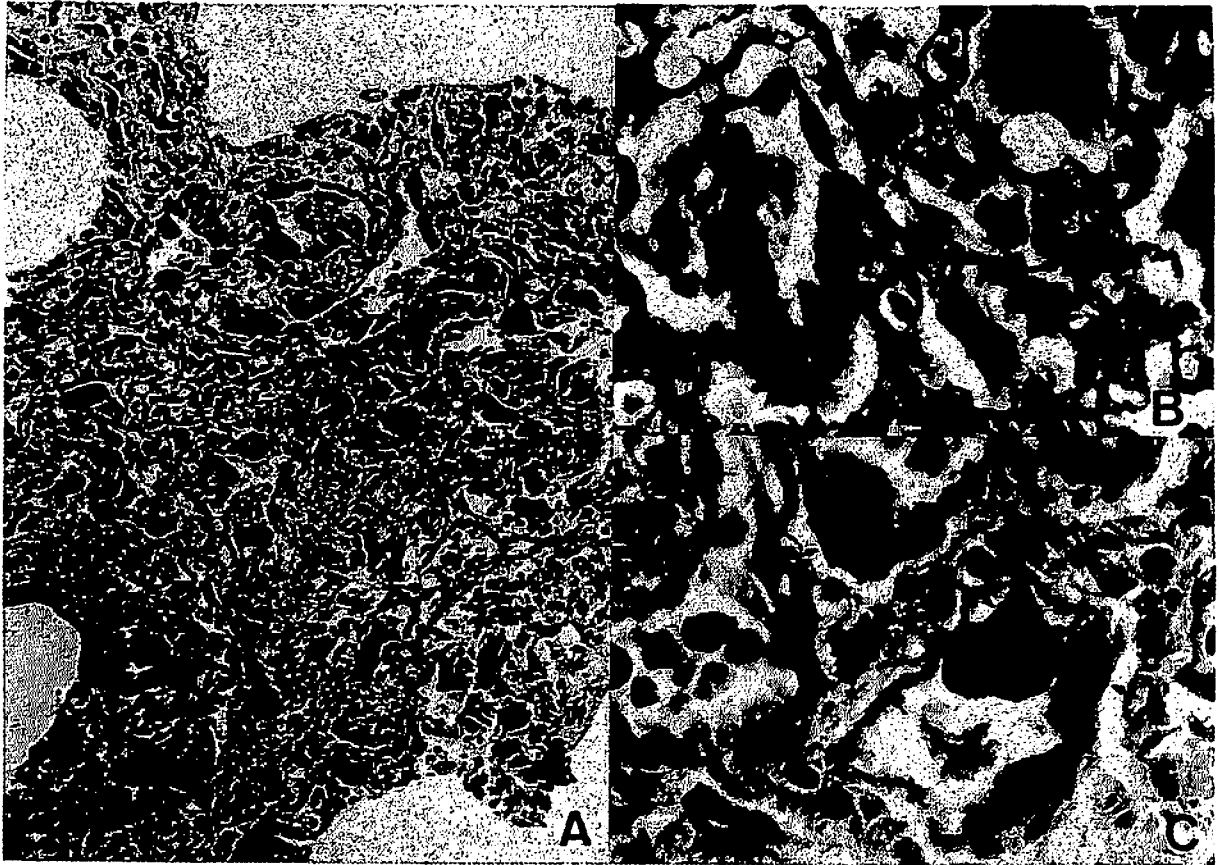


犬のジステンパー性巨細胞性肺炎

鹿児島大学家畜病理学教室出題 第21回獣医病理学研修会標本No.343



動物：秋田犬，雌，100日齢，体重8.7kg。

臨床的事項：1980年3月24日，元気食欲不振で肺炎および脱水症状を呈し本学家畜病院に来院する。ジステンパーと診断され，治療を施し経過観察中，同月29日夜斃死した。

剖検所見：被毛光沢あり。栄養状態稍々不良。肺は収縮不全で左前葉前部，同後部，右前葉，同中葉および副葉等各葉辺縁部に限界明瞭な肺炎部が認められ，該部は表面汚赤褐色を呈し，粟粒大～小豆大の黄白色結節が数ヵ所散在する。剖面は帯黄褐色を呈し，圧するに黄白色膿様液を排する。左右後葉は淡赤色を呈し，剖面少量の白色泡沫の流出をみる。小腸に粘液の増加がみられ，その他の各臓器には中等度のウツ血がみられるが特に肉眼的変状は認められない。

組織学的所見：肉眼的に肺炎像を呈していた各葉の辺縁部は著明な好中球浸潤を伴う肺胞上皮，気管支上皮の剝離脱落著明な，いわゆるカタル性肺炎像を呈している。提出標本は肉眼的には肺炎像がみられず，稍々無気肺の観を呈していた右後葉の一部であるが，肺胞の気腫性拡張と無気肺部が混在して認められ，無気肺部の肺胞は腫大した肺胞上皮で内張りされ，胞腔には増生した肺胞上皮を満たしている（写真A）。この像は鍍銀染色で肺

胞壁格子様線維を染め出すことにより，なお一層明瞭となる（写真B）。胞腔内には剝離上皮や変性細胞を容れるものも多く認められるが，単球や好中球の出現は少ない。細気管支は殆んどのものに肺胞同様脱落上皮，変性細胞がみられ，正常像を呈するものは見当たらない。増生した肺胞上皮に混じて随所に巨細胞の出現がみられ，これらの巨細胞は肺胞内腔に突出するものや，腔内に脱落するものが多く認められる。このような肺胞上皮の増生や，巨細胞出現は提出標本部以外の肺の略々全葉において認められる。肺胞上皮，巨細胞の殆んどのものに種々の大きさの原形質内，時に核内の封入体が認められる（写真C矢印）。封入体は好酸性で，トルイジン青でメタクロマジーを，ホイルゲン反応に陰性，ピロニンに好染し，気管支，胃，小腸，大腸，膀胱等の粘膜上皮，リンパ節の細網細胞内にも散見される。

以上の如く本例は臨床および病理学的所見よりジステンパー性の肺炎と診断しうるものであるが，提出標本にみられるような肺胞上皮の著明な増生と肺胞上皮由来とみられる多くの巨細胞が出現している。このような症例は本教室の過去の剖検例中のジステンパー例には認められず，極めて興味あるものである。